

## 中央・新旭川まちづくり推進協議会 会議録 令和5年度第2回

会議概要	
日時	令和5年11月14日(火曜日) 午後6時30分から午後8時まで
場所	旭川市総合庁舎 7階 大会議室C
出席者	委員 (11名, 正副会長以外は50音順) 伊藤委員, 上野委員, 大久保委員, 久保委員, 三本松委員, 鈴木委員, 素野委員, 高橋委員, 谷越委員, 十川委員, 山岡委員 (欠席者 山田会長, 中村副会長, 石橋委員, 今井委員, 桜木委員, 佐藤委員, 蔦原委員, 福原委員, 本多委員) オブザーバー 旭川市立大学経済学部 黒川教授, 黒川ゼミ 曾根氏, 村谷氏, 林氏 旭川市地域まるごと支援員 菊地支援員, 成田支援員 事務局 地域活動推進課 小松主幹, 谷口補佐, 浅沼
会議の公開 ・非公開	公開
傍聴者の数	0名
会議資料	次第 資料1 中央・新旭川地域の補助事業 令和5年度の進捗状況

(補足)「中央・新旭川まちづくり推進協議会」を以下「協議会」という。

### 議事の内容

#### 1 開会

冒頭に, 市の担当者から, 市政情報の説明があった。  
出席委員の確認, オブザーバー出席者の紹介を行った。

#### 2 中央・新旭川地域のまちづくりの検討と推進について

## (1) 補助事業の進捗状況報告

今年度、活動を実施している2事業について、資料1のとおり進捗状況を確認した。

### ア 西地区多世代交流この指と～まれ

実施団体の西地区多世代交流この指と～まれ実行委員会とともに事業構築に携わった旭川市地域まるごと支援員の菊地氏から、進捗状況について報告があった。

主な内容は次のとおり。

- ・当該実行委員会は、西地区の住民組織、関係機関で構成され、子どもから高齢者までの交流を通じた顔の見える地域のつながりづくりを行うことを目的として活動している。
- ・令和4年12月から、継続的に地域関係者との検討を進め、西地区の子どもから高齢者までを対象とし、昔遊びをとおした多世代交流を実施することとなった。
- ・昔遊びは、メンコ、お手玉、紙相撲、あやとり、ビー玉などを用意し、地域の高齢者がボランティアで先生となり、幼児や小学生を相手に遊び方を教えながら交流を行った。
- ・当日は、72名の地域住民が参加する中、西地区で活動している地域食堂の協力を得て、カレーライスやかき氷の提供を行い、昔遊びと食をとおした多世代交流を楽しむことができた。
- ・成果としては、コロナ禍で地域活動が行えない期間があったが、活動を再開できた。また、役割分担により、地域住民の主体的な活動につながった。
- ・難しかった点としては、開催規模が大きくなり、準備に時間を要した。また、3つの小学校の児童を対象としたので、会場までの距離が遠くて子どもだけでは参加できないという声があった。
- ・今回は、地域住民による主体的な活動として規模の大きな多世代交流事業となったが、大きな事故やトラブルもなく良かった。
- ・今後は、この経験を生かし、開催側の負担軽減を図りながら、細く長く、各学校区で幅広い世代とのつながりづくりを継続的に行っていくという方針で検討を進める。

### イ 朝日地域食堂「ひまわり」

実施団体の朝日地区ひまわりの会に参画する山岡委員、素野委員から、進捗状況について報告があった。

主な内容は次のとおり。

- ・この会は、住民同士の交流と、顔の見える地域づくりを目的として活動し、年4回の地域食堂の実施を予定。会場は中央公民館ほか、日曜日の午前10時から正午まで。
- ・食事担当のボランティアが調理室で炊飯とウィンナー、卵焼き、スパゲッティーなどの料理を行い、子どもたちがおにぎりを握り、一緒におかずや果物を弁当箱に詰める作業を行う。
- ・また、制作担当のボランティアが別室で子どもたちの工作や折り紙などの作業をサポートし、

できあがったものは各自持ち帰る。ハロウィンのときは、ミニカボチャの飾り付けやリースづくりを行った。

- ・子どもたちは、それぞれ楽しく過ごしており、喜んでお弁当や工作を持ち帰っていた。
- ・子どもたちと地域がつながりを持つのは難しい、普段その辺で子どもに挨拶をするのはなかなか難しい。お菓子や食事があれば、それにつられて来てくれて、そこでようやく顔が見えて、雰囲気が見えて、交流ができる。これを繰り返してお互いに認識できるようになる。
- ・昔からお正月、ひな祭りなど、いいお祭りがあるので、これを活用して交流することができると思う。
- ・次回の12月はクリスマスなので、いろいろと準備したい。

## (2) 意見交換『子どもと地域のつながり』について

子どもと地域のつながりをテーマとし、2つのグループに分かれて意見交換を行い、その内容を発表し全体で共有を図った。(旭川市立大学経済学部 黒川教授及び黒川ゼミ学生も一緒に意見交換を行った。)

共有した内容については、今後も引き続き協議を行うこととした。

意見交換における主な内容は次のとおり。

- ・昔と比べると子どもが少なくなり、学校の学級数も減り、地域によっては学校存続が危ぶまれるところもある。このような状況の中で、子どもとのふれ合いというものなかなか難しい。
- ・旭川市は子育てがしやすいまちである。この3年間はコロナ禍でどうしてもPTA活動、町内会活動が思うようにできず、活動が縮小していて、子どもとの関わり合いが持てない状況が続いている。以前のような活動に戻すために、各町内会やPTAが役割を担っていかねばならないと思うが、個人情報の壁があり、なかなか情報共有が難しい。
- ・子どもたちとの関わりを持つには、やはり地域の町内会、PTAが連携していかなければならないと思うが、一緒にやろうとしてもどこか他人行儀な部分があって、なかなか思うようにならない。
- ・子どもたちが大きくなったときのことを考えると、旭川に魅力ある企業があったり、新たに自分たちで仕事を作ったり、起業する若者を育成しやすい環境があると良いと思う。企業を誘致するだけでなく、人材を育て、いろいろな形でチャレンジしやすい環境を整え、企業をつくる活動もあっていいのではという意見もあった。
- ・世代間交流を進めるためには、お祭りなどのイベントを開催する方法があるが、単発の開催になってしまうので、日常での継続した交流にはなかなかつながらない。
- ・昔の小学校では、運動会に親戚中が集まり皆でお弁当を食べ、親御さんたち同士が顔見知りになるという一つの大きな交流の場があったが、時代とともに環境が変化してきた。
- ・地域住民同士の交流を新たに開拓するには、親御さんに興味を持ってもらうのが先なのか、子どもの興味を引くことが先なのかという話が出たが、やはりそこは両方で、お父さん達が

子どもを連れて行ってみようとなるのが望ましい。

- ・ 学生さんから話があったが、今の親御さんたちは町内会や地域の交流にはなかなか参加しなくなっており、そのため、子どもたちも町内会が何をやっているのかが分からない。
- ・ 参加してもらうターゲットを考えながら、戦略を持ってイベントを開催していく必要がある。また、人を集めるためには、ビンゴゲームなどが効果的で結構人気があるということ。
- ・ 地域の日常的な交流の場としては、ラジオ体操などがある。子どもからお年寄りまで、顔見知りになり、挨拶もするようになるので、すごく良いのではないか。
- ・ 子ども食堂や地域食堂でも、単にご飯を提供するだけでなく、子どもたちと何か一緒に作業をしたり、お手伝いしてもらったりするなどして、関係づくりをしていくことも大切ではないか。
- ・ 今、20分や30分考えただけで、このようにいろいろと話が出てくるので、今後もこのような機会を設けたら良い。少子化の中、非常に難しい問題だがここの地域が住みやすい、楽しいということになれば素晴らしい。財源がない、環境が整わない、個人情報保護など様々な課題はあるが、協力し乗り越えていけるのではないか。

### 3 その他

#### (1) 次回の協議会について

次回の協議会は、あらためて日程を案内することとなった。

### 4 閉会